

福島県原子力防災住民避難訓練における事前演習の有効性について

公益社団法人 福島県診療放射線技師会 放射線管理士部会 ○佐久間 守雄 (Sakuma Morio)

菅野 修一 齋藤 康雄 遊佐 烈 佐藤 政春 新里 昌一

【目的】

東日本大震災以降、スクリーニング活動を行うことが出来る診療放射線技師の需要が高まっているが、経験技師数が少なく、また経験者間でも測定手順が異なるため早急な育成と手順統一が求められている。

東日本大震災以降、福島県が主催する初めての原子力防災住民避難訓練(以下訓練)が平成26年11月22日に開催されるのにあわせて、訓練参加者を対象とした概略説明とスクリーニング演習を行った。その際にアンケートをとり事前演習の有効性と今後の展望を考察したので報告する。

【方法】

アンケート対象者は事前演習参加者17名とし、質問数は6つとした。

質問① 原子力防災住民避難訓練への参加歴。

質問② 5年以内にGMサーベイメータ取り扱い経験の有無。

質問③ 訓練概略説明の感想。

質問④ スクリーニング演習の感想。

質問⑤ スクリーニング演習参加後での気持ちの変化。

質問⑥ 演習の感想。

回答は質問①～⑤は択一式、質問⑥は自由記載とした。

【結果】

有効回答率94.1%(n=16)だった。

質問① あり6名、なし10名。

質問② 参加歴ありのうちGM使用歴あり3名・GM使用歴なし3名。参加歴なしのうちGM使用歴あり5名・GM使用歴なし5名。

質問③ 全体にて、非常に興味がわいた7名、興味がわいた8名、その他1名。

質問④ 全体にて、非常に興味がわいた8名、興味がわいた8名。

質問⑤ 全体にて、より興味を持ち参加したい14名、変わらない2名。

質問⑥ 自由記載の一例を記す。

- ・本番前に参加者との顔合わせ+打ち合わせ+いい練習ができた。
 - ・限られた時間の中でのスクリーニングの大変さを改めて感じた。
 - ・やはり実践演習は、やってみると難しいことを改めて実感した。
 - ・プローブのあて方や測定速度、同時に測定値を見なければいけない等、頭では理解できているつもりでも意外に難しいことが分かった。
 - ・実技を伴う訓練は、事前に機器の使い方や手順を身につけておかないと、当日の対応がスムーズに行かないばかりで無く、有事の際にも自ら進んで活動することができない。
 - ・放射線技師会としても定期的なスクリーニング習得訓練が必要と思われた。
 - ・GMサーベイメータによる測定は、検査員2人で1時間に30人しか検査できないため、大量の人を検査するための物では無いのではと疑問がわいてきました。トライージを行い2次検査で使う方が実用的ではないかと感じました。
 - ・スクリーニング以外での診療放射線技師の携わる機会はあまりないことがわかった。もっとできる範囲が広がってもいいのではないかと考えた。
- などの意見を頂いた。

上記に関する対応として、今年度の訓練では原子力規制庁発行の「原子力災害時における避難地域時検査及び簡易除染マニュアル」を基にしたスクリーニング部位の減少や、より効率的な対策が行われる予定である。また宮城県では、訓練時に「放射線相談ブース」を設け、放射線相談を行っており、当県も人員が充分満たされれば対応したいと考えている。

【考察】

原子力防災住民避難訓練経験の有無を問わず、事前演習は有効であった。

福島県が発行する福島県緊急被ばく医療行動計画などを見ても、スクリーニング活動に対する診療放射線技師への期待は高いため、我々は社会貢献活動の一環として「あたりまえ」にスクリーニング活動が行えるように、福島県診療放射線技師会 放射線管理士部会は今後も継続して活動を行っていきたい。